



セルブ水土舎が栽培しているブルーベリー

同施設は一昨年四月に開所。十八歳以上の男女三十人が通い、ハムやソーセージなどの製造、養鶏、米や野菜の有機栽培に励んでい

る。月月下旬まで採れ、観光農園としても一般に開放してい

る。富岡市後賀の知的障害者授産施設セルブ水土舎(金谷透施設長)が施設近くの農地約六七ヘクタールで栽培しているブルーベリーに実が熟し始めた。施設の利用者は真夏の日差しが照りつける中、汗だくになりながら毎日、すべての木に水をやる作業を続いている。実は今

本を含めて九百本が植えられた。ブルーベリー園には施設の廻所と同時に、金谷施設長が経営していた赤城山の農場から移植した成木五百本を含めて九百本が植えられた。

利用者は、時折甘酸っぱく熟した実をつまみ食いしながら、水やりと肥料を与える作業に励んでいる。金谷施設長は「今は木を成長させるための酸性土壠作りや苗木二千本を育てている段階。来年はもっと収穫量が増えるはず」と話している。

### 富岡の障害者 授産施設 ブルーベリー栽培に汗

# 3年目ついに収穫

## 西北毛



藤岡  
FAX 0274-2220562

0274-6221299  
FAX 0273-40962

0273-3734096  
FAX 0273-40962

002274-2220562  
0273-40962

0273-40962  
FAX 0273-40962

0273-40962  
FAX 0273-40962

れている。やせた荒れ地を好むブルーベリーを野菜作りに適した肥えた畑に植えため、移植した成木が根を張らず、三年目にしてわずかに収穫できるようになった。

利休は、時折甘酸っぱく熟した実をつまみ食いしながら、水やりと肥料を与える作業に励んでいる。金谷施設長は「今は木を成長させるための酸性土壠作りや苗木二千本を育てている段階。来年はもっと収穫量が増えるはず」と話している。